

米国農務省穀物等需給報告(2007年11月9日発表のポイント)

米国農務省は、11月9日(現地時間)に2007/08年度7回目(大豆については6回目)の世界及び主要国の穀物・大豆の需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

〔 2007/08年度の穀物の生産量は前年度に引続き消費量を下回り、大豆の生産量も消費量を下回る見込み。 〕

1. 世界の穀物需給の概要(見込み)

- ① 生産量:20億7,883万t(対前年度比 4.4%増)
- ② 消費量:20億9,539万t(対前年度比 2.5%増)
- ③ 期末在庫量:3億1,916万t(対前年度比 4.9%減)
 期末在庫率:15.2%(1.2ポイント減)

【主な品目別の動向】

○ 小麦

- ① 生産量:6億330万t(対前年度比 1.6%増)…米国、オーストラリア等で増加
- ② 消費量:6億1,756万t(前年度並)
- ③ 期末在庫量:1億980万t(対前年度比 11.5%減)
 期末在庫率:17.8%(2.3ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:大きな修正なし

○ とうもろこし

- ① 生産量:7億6,822万t(対前年度比 9.2%増)…米国、カナダ等で増加
- ② 消費量:7億6,282万t(対前年度比 5.7%増)…世界的な飼料用需要の増加に加え、米国内でエタノール需要が増加
- ③ 期末在庫量:1億1,039万t(対前年度比 5.2%増)
 期末在庫率:14.5%(0.1ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:生産量、期末在庫量の米国の下方修正及び中国の上方修正

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

- ① 生産量:2億2,081万t(対前年度比 6.3%減)…米国等で減少
- ② 消費量:2億3,353万t(対前年度比 3.8%増)…世界的な搾油需要の増加
- ③ 期末在庫量:4,935万t(対前年度比 20.5%減)
 期末在庫率:21.1%(6.5ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:大きな修正なし

世界の穀物の価格動向(2007年)

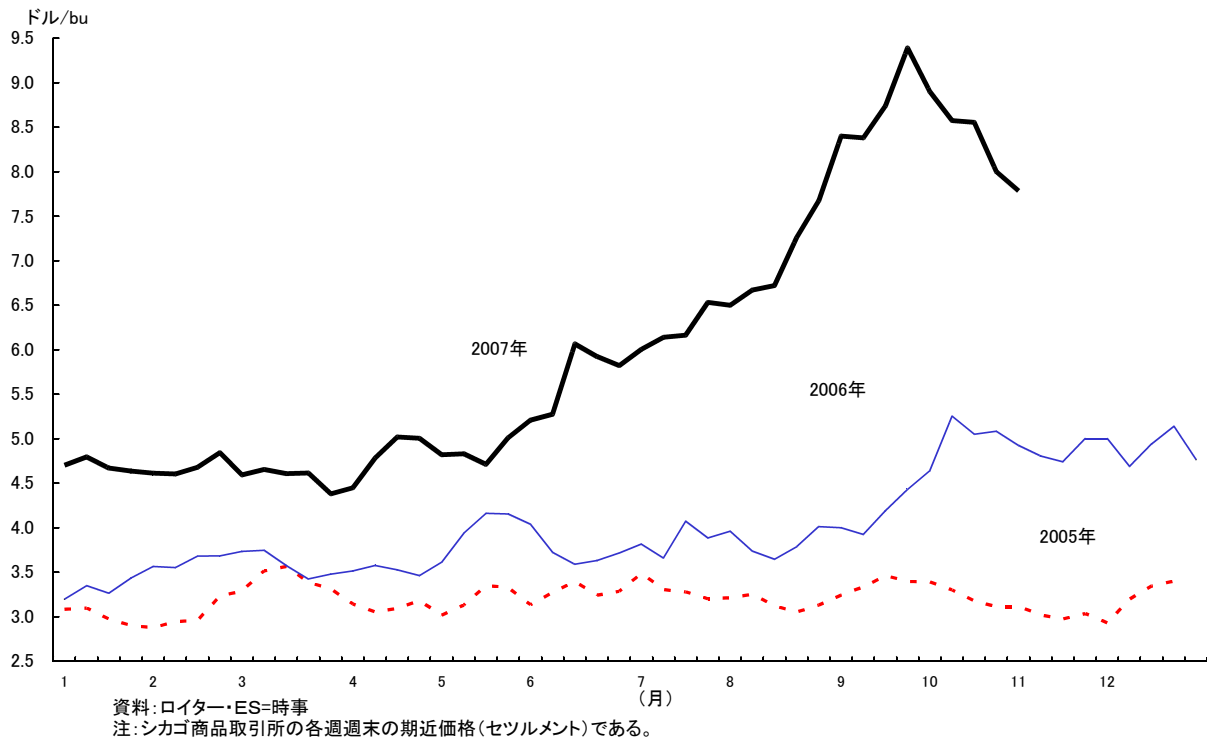
(穀物価格は、シカゴ商品取引所における11月第1週末の期近価格である。)

● 小 麦:7.79ドル/bu(前年同時期の価格:4.93ドル/bu)

2004年の世界的な豊作を背景に、2005年は比較的低位で推移したが、12月以降、米国の干ばつによる新穀への作柄不安等から上昇に転じた。

2006年3月に入り、米国主産地における降雨等の天候改善により一旦値を下げたものの、その後、冬小麦産地の干ばつによる作柄悪化の懸念が生じたことから値を上げたが、6月に入り、天候改善による作柄の改善見込み等から値を下げた。9月中旬以降、オーストラリアの干ばつによる減産懸念等により値を上げ、その後、米国等における来年度増産見込み等により水準を下げながら推移した。

2007年2月中旬以降、今夏のラニーニャ予測による2007年産農産物の生育への悪影響懸念から一時値を上げ、その後、4月からは米国主産地の寒気による被害等から値を上げた。5月に入り、ウクライナの干ばつ等によりさらに値を上げ、その後、米国の降雨による収穫作業の遅れや欧州の天候懸念等からさらに値を上げた。8月以降、カナダや欧州の減産見込みに加え、オーストラリアの干ばつによる減産懸念や旺盛な需要等を背景にさらに値を上げ、10月1日に史上最高値の9.5ドルまで値を上げたが、需要減少により、現在は7ドル台後半で推移。

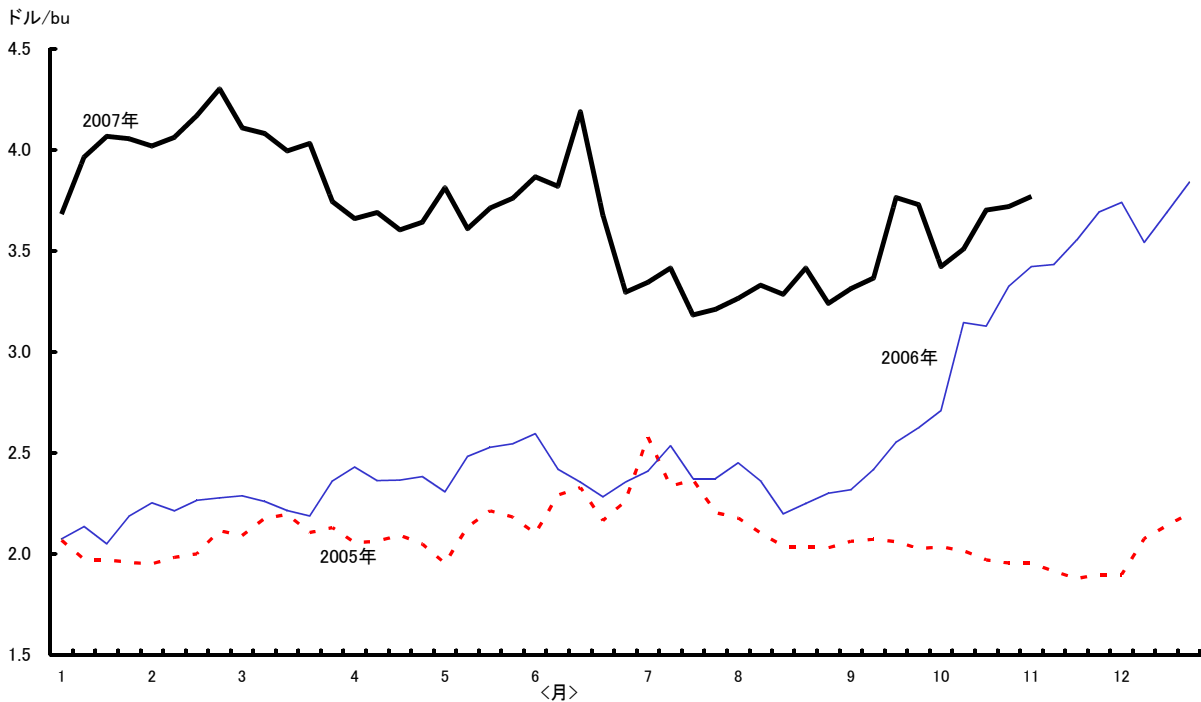


● とうもろこし:3.77ドル/bu(前年同時期の価格:3.42ドル/bu)

2004年の世界的な豊作を背景に、下落基調の中2005年に入ったが、2005年5月以降は、米国主産地における乾燥天候懸念が強まったため、一時上昇したものの7月中旬以降は気象条件の改善による順調な生育条件となったこと等から下落基調に転じたが、12月からは、南米の乾燥天候による生育への悪影響懸念等から再び値を上げた。

2006年3月以降、米国における作付面積減少見込みから値を上げ、さらに5月以降エタノール仕向けを中心とした需要増加を背景に値を上げた。その後、9月中旬以降、米国の降雨による収穫作業の遅れのほか、オーストラリアの干ばつによる世界的な飼料穀物の供給力悪化懸念等により上昇基調に転じた。

2007年に入り、米国の需要増加の見通しや今夏のラニーニャ予測による2007年産農産物の生育への悪影響懸念からさらに値を上げたが、3月末の米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積増加見込みを受けて値を下げた。6月に入り作付後の乾燥懸念から一時値を上げたが、その後の降雨と6月末の作付面積報告により当初予想以上に作付面積が増加し、概ね生育も順調とみられることから値を下げた。9月に入ると、欧州を中心とした飼料用作物の供給悪化懸念と輸入の動きや、原油価格の高騰を背景に徐々に値を上げ、3ドル台後半で推移。



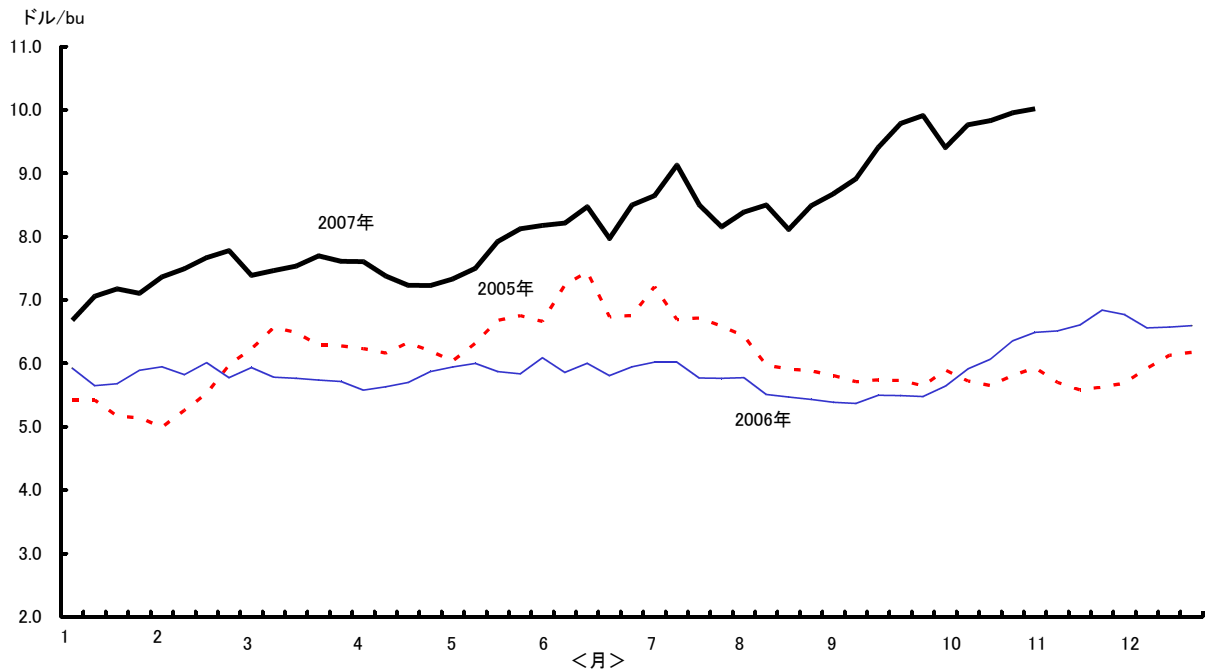
資料:ロイター・ES=時事
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● 大豆:10.02ドル/bu(前年同時期の価格:6.49ドル/bu)

2004年の世界的な豊作を背景に、下落基調の中2005年に入ったが、2005年2月以降、収穫期におけるブラジルの天候不順等を背景に上昇し、さらに5月以降、米国主産地における作付期の乾燥天候懸念が強まったため上昇した。7月中旬以降は気象条件の改善による順調な生育条件となったこと等から下落基調に転じたものの、12月からは、南米の乾燥天候による作付及び生育への悪影響懸念等からやや水準を上げた。

2006年は、米国の期末在庫が潤沢なことに加え、米国における新年度の作付面積の増加が見込まれたこと等からほぼ横ばいで推移したが、9月中旬以降、来年度の米国における作付面積減少懸念等により上昇基調に転じた。

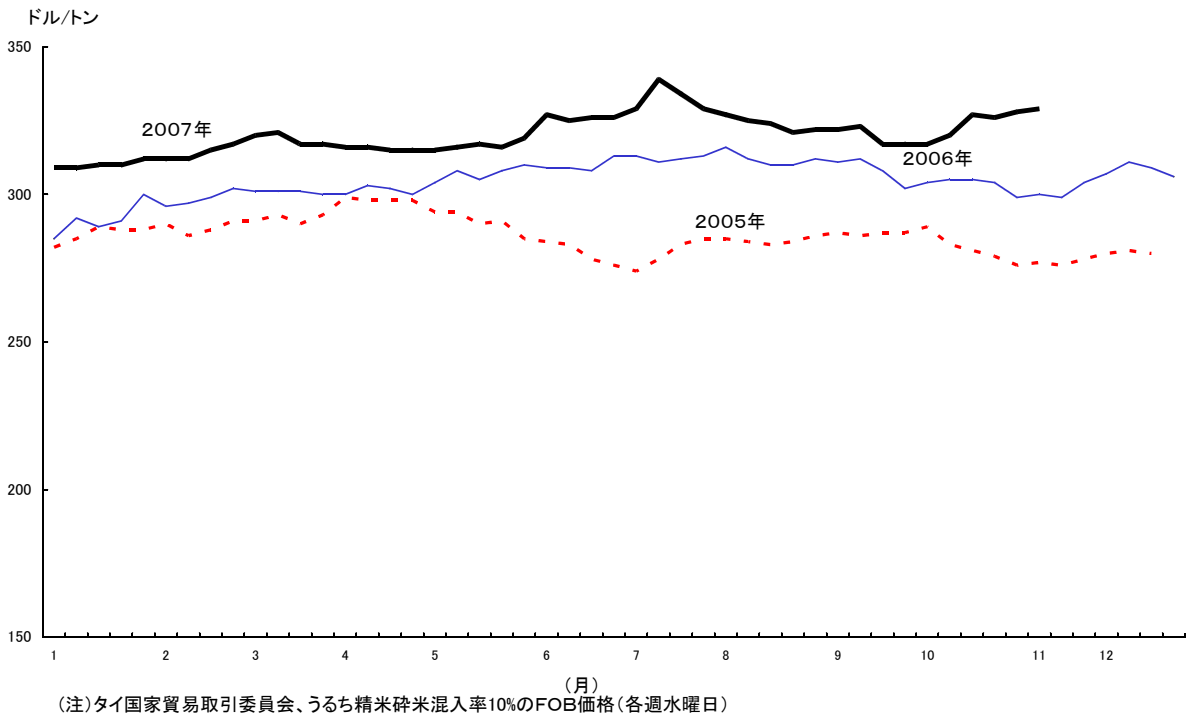
2007年2月中旬以降、今夏のラニーニャ予測による2007年産農産物の生育への悪影響懸念からさらに値を上げ、一旦、値を下げたが3月末の米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積減少見込みを受けてやや値を上げ、その後、バイオディーゼル原料需要の増加による植物油価格の上昇につられて値を上げた。6月末の作付面積報告により当初予想以上に作付面積が減少したこと、さらには干ばつによる生育への悪影響懸念から値を上げたが、その後の天候の改善から値を下げた。8月後半に入り、米国の一部主産地の乾燥懸念やその後のブラジルの乾燥天候による作付作業の遅れ懸念から値を上げ、10月に入り原油や大豆油価格の上昇を背景にさらに値を上げ、現在は10ドル台前半で推移。



資料:ロイター・ES=時事
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● 米:329ドル/トン(前年同時期の価格:300ドル/トン)

2004年の後半から中国の輸出量減少による上昇基調の中、2005年の前半は、290ドル/t前後で推移した。2005年3月下旬頃からは収穫期を終えたタイの輸出力がある程度回復したため、やや水準を下げたものの、7月以降は世界的な需給のタイト化を背景にやや値を上げ、280ドル/t前後で推移した。その後、11月以降は堅調な需要を背景にやや水準を上げたものの、2006年に入ってからほぼ横ばいで推移した。2007年6月からはフィリピン等東アジアでの需要増加に加えイラン、イラク向け輸出の増加など、世界的な需給の引き締まりを背景に値を上げたものの、現在は300ドル/t台前半で推移。



(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年1月	2月	3月	4月	5月
121.94	113.15	107.49	113.26	116.89	120.58	120.45	117.28	118.83	120.73

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月	19年10月
122.62	121.59	116.72	115.02	115.74

注: 東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

14年	15年	16年	17年	18年	19年1月	2月	3月	4月	5月
20.86	35.14	58.99	49.49	41.59	55.58	58.09	68.73	62.02	69.89

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月	19年10月
72.64	89.51	93.01	100.72	115.23

注: 米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)
2007年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

14年	15年	16年	17年	18年	19年1月	2月	3月	4月	5月
26.08	31.04	44.26	56.56	66.21	54.35	59.39	60.74	64.04	63.53

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月
67.53	74.15	72.36	79.63

注: 内閣府「海外経済データ(平成19年10月)」